



落合川は荒川水系黒目川の支川で、武蔵野台地からの湧水が固有水源となり、良好な水質が安定して流れているため希少種とされているミズニラやナガエミクリなどの植物が多く生育するほか、東久留米市の氷川神社の裏手を流れる箇所では武蔵野の雑木林の代表的な種であるクヌギ、シラカシなど多くの木々が河畔林を形成しています。また、ホドケドジョウなどの希少種の生息も確認されている東京都有数の良好な環境を有する河川です。

流域面積わずか6.79km<sup>2</sup>という小規模な河川ながら、落合川流域の南沢地域では10,000m<sup>3</sup>/日、黒目川との合流部付近では50,000m<sup>3</sup>/日の流量があるといわれています。

かつて排水路として使用され、両岸が護岸された都市河川ながらも、現在はその清澄で豊富な水を有し、人々が水辺に集い、川で遊ぶ良好な河川環境が形成されています。

平成16(2004)年に実施された改修工事では、現況の河床や河畔林が極力保全され、希少種ホドケドジョウの生息する河床の保全及び水際植生の再生が図られました。



施工前



施工2年後（平成18年）



落合川は50mm/時の降雨に対応する護岸整備を行っており、整備に際しては、現況河床や右岸側の河畔林を極力保全することが望まれていました。

貴重な動植物の生息・生育環境を保全するため、現況河床には手をつけず、河道幅を広げるとともに、護岸や根固め等、人工構造物を極力設置しないこととしました。これにより、氷川神社裏側の樹林と天然河岸が保全されました。

橋梁取付け部や水衝部などの護岸整備が最低限必要な部分については、自然石を用いた護岸形式としています。



南沢湧水地

**清**澄で豊富な水を有する恵まれた環境に加え、地域の生活にとけ込み地域住民が主体的かつ、持続的に保全活動を行ってきたことが評価され、平成20(2008)年6月に「落合川と南沢湧水群」が、東京都で唯一の環境省による「平成の名水百選」に選定されました。

その前年の平成19(2007)年の夏に公開されたアニメーション映画の中でも、南沢湧水地や同じ東久留米市内を流れる黒目川など落合川周辺地域が物語の舞台として取り上げられる等、近年は落合川・黒目川を中心としたこの地域に関心が高まっていることが伺えます。

現在の河川を含めた周辺の都市環境、湧水の豊かで清らかな水が多くの人を引きつけています。今後も清澄で豊富な水を有する環境を維持する取り組みを継続していくことが期待されます。



落合川 ふれあいの水辺